



「新川宿ふれあい通り」 道路整備の特徴

一方通行化

東八道路から吉祥寺通りへの一方通行にすることで、通過交通を抑制します。



歩車道の段差

歩道側5cm、車道側2cmの歩道ブロックを採用し、段差解消を図ります。それにより自転車、車椅子、ベビーカー等が乗り上げやすいバリアフリー構造になります。



歩道の舗装

透水性のアスファルト舗装に、ヒートアイランド対策として表面に温度抑制効果のある熱交換塗料を塗布しています。



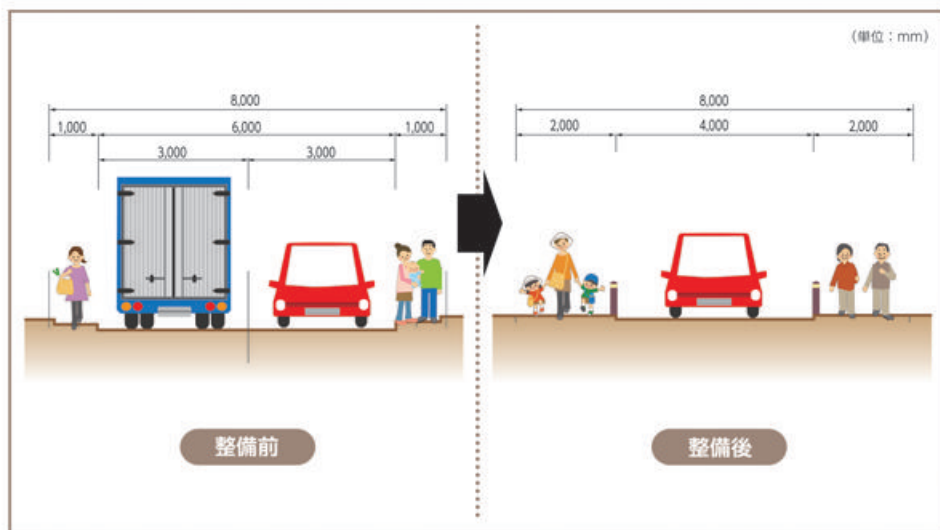
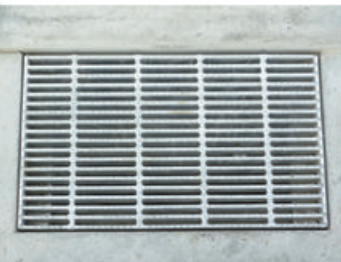
歩道と車道の境界にポラードを設置し、安全対策を行います。自動車の違法駐車抑制にも有効で、適度の硬さを持つ再生プラスチック製品を採用しています。

ポラード



ヒールなどが入らず、葉っぱやゴミなどの掃除もしやすい細めのグレーチング蓋を採用しました。

雨水ます蓋



ポケットパーク pocket park

第一小学校南側に花壇や植栽、ほっとベンチを設置し、人々のふれあいの場を設けました。

「新川宿ふれあい通り」 完成記念

地域の みちづくり

新川宿で取り組んだ

地域でつくる、人と地球にやさしい「ゆとり」と「くつろぎ」のある道
子どもからお年寄りまで、みんながふれあう新川宿の道を目指して



問い合わせ先
まちづくりについては ▼

三鷹市 都市整備部 まちづくり推進課
TEL 0422-45-1151 内線2862~2864

道路の詳細については ▼

三鷹市 都市整備部 道路交通課
TEL 0422-45-1151 内線2845~2847

平成24年3月

三鷹市 新川宿まちづくり協議会 株式会社まちづくり三鷹





新川宿ふれあい通り
完成にあたって

三鷹市長 清原 慶子

このたび、市民の皆様の想いを反映し、協働の道づくりの取り組みの成果として「新川宿ふれあい通り」が誕生しました。

都道であった「旧吉祥寺通り」を三鷹市に移管して下さった東京都の皆様、そして、約4年間にわたり、安全で安心して通れる道づくりの実現に向けて、道づくりへの期待と想いと意見を交わし合い、東から西への一方通行化というご提案をはじめ、ご努力いただいた「新川宿まちづくり協議会」の皆様へ心から感謝申し上げます。

この道が、「新川宿ふれあい通り」という愛称名にふさわしく、道を利用される「人と人が出会い、語り合い、ふれあう道」として、末永く愛されることを心から願っています。



地域ですすめた
まちづくりの実現

新川宿まちづくり協議会
委員長 根岸 稔

「新川宿ふれあい通り」の整備については、地域住民の意見を盛り込んだ、新しいスタイルのまちづくりが実現できたと思っています。

平成19年9月に「新川宿まちづくり協議会」がスタートし、三鷹市、株式会社まちづくり三鷹とともに、4年半の間、議論を重ねながら進めてまいりました。安全安心な道路、景観も良く、環境などにも配慮した道路を目指し検討してきた結果、我々の努力が報われ、このようなつくしい通りに生まれ変わったことを嬉しく思い、感謝の気持ちで一杯です。

今後も地域の皆さんが日々、笑顔で生活できるまちを目指し、地域の皆さんと共に、「みんながふれあうまちづくり」を進めていきたいと思っています。

〈東京都三鷹市全域〉



- 「新川宿ふれあい通り」の概要
- 路線名：市道第840号線
 - 延長：189.90m
 - 整備前の幅員構成：歩道1m(両側)、車道6m
 - 整備後の幅員構成：歩道2m(両側)、車道4m
 - 交通規制：東から西への一方通行

三鷹市の新川宿エリアは、三鷹の中央東側に位置し、住宅地と商店、農地が共存しているエリアです。

当エリアで、安全で安心な歩行空間の確保と良好な景観の形成、商店街の活性化などのまちづくりの課題に取り組んでいくことを目的に、平成19年9月に住民や町会や商店会、学校関係者及び各種団体の方々で構成された「新川宿まちづくり協議会」が発足しました。

今回道路整備の対象である「旧吉祥寺通り」は、東三鷹学園三鷹市立第一小学校周辺地域の重要な道路で、通学路になっているにもかかわらず、歩道が非常に狭い上に電柱があるなど、安全性が問題になっていました。また、都市計画道路の整備によりバス路線としての機能がなくなるなど、その役割も以前と比べると変化していることなどから、この道路を新川宿のまちづくりのモデルとして、安全・安心はもとより周辺地域の活性化も含めた道路整備の検討に取り組みました。

そして、協議会と三鷹市、株式会社まちづくり三鷹で検討を重ね、地域の方々の協力も得て、平成24年3月に「旧吉祥寺通り」から安全・安心な「新川宿ふれあい通り」として生まれ変わりました。

「旧吉祥寺通り」が「新川宿ふれあい通り」として
生まれ変わるまで

平成24年 平成23年 平成22年 平成21年 平成20年 平成19年

3月24日 ●「新川宿ふれあい通り」完成

12月 ●道路整備工事開始(写真⑨)

11月 ●道路愛称名について三鷹市長と意見交換

第一小学校児童、地域の方からご応募いただいた道路愛称名をもとに三鷹市へ提案し、意見交換しました。その中から、「新川宿」という歴史のある呼び名と、応募者、協議会の思いを込めた「ふれあい」を合わせて「新川宿ふれあい通り」に決定しました。(応募総数259件22種類)

10月 ●他の道路整備の事例を視察(写真⑧)

道路整備の事例を視察し、道路構造や経年変化の様子を確認しました。

3月 ●新川宿まちづくりに関する要望書を三鷹市へ提出(写真⑦)

2月 ●道路整備についての具体的な検討

子どもからお年寄りまで安心して通行でき、環境にも配慮した道路整備について、歩道と車道の段差、ポラードの設置、歩道の舗装や色等、具体的に検討しました。

12月 ●協議会案に対する地域の合意形成に向けての取り組み

協議会案に対する地域の皆さんの意見を聞くためにアンケートを実施しました。協議会案に心配、不安を感じている方には、協議会役員が個別に訪問し、意見や要望を聞いて、活動経過や趣旨、目的などを説明しました。

3月 ●旧吉祥寺通りについての協議会案のまとめ(写真⑥)

2月 ●現状の道路実態を調査(写真⑤)

協議会だより創刊号発行(月1回発行)(写真④)

協議会だより創刊号発行(月1回発行)(写真④)

現状の道路実態を調査(写真⑤)

さまざまな幅員の歩道で、協議会メンバーが車椅子やベビーカー、自転車などで通行し、快適に歩ける歩道の幅を検討しました。

旧吉祥寺通りについての協議会案のまとめ(写真⑥)

人々が安心して歩けるゆとりとふれあいのある道にするには、一方通行化にする必要があること、さらに、東から西への一方通行化で通過交通量を少なくすることが不可欠であることを協議会の考えとしてまとめました。

4月 ●旧吉祥寺通りのテーマの決定

「地域をつなぐ、人と地球にやさしい「ゆと」と「くろぎ」のある道」

子どもからお年寄りまで、みんながふれあう新川宿の道

第一小学校周辺を「安全・安心を考えるエリア」として位置づけ、特に、「旧吉祥寺通り」が通学路として安全性の問題があることから、最初に道路の改善・検討が必要な道路として、道路整備の方向性について検討を開始しました。

4月 ●道路の改善対象として旧吉祥寺通りの検討開始

3月 ●まちづくり勉強会の開催

4月 ●先進都市の視察(川越駅前商店街)(写真②)

3月 ●「あいさつ運動」の開始(写真③)

子どもたちと地域とのふれあいを深めることを目的とした「あいさつ運動」を開始し、東三鷹学園エリアに標語ポスターを掲示しています。

12月 ●「新川宿まちづくり協議会」発足

9月26日 ●第一回新川宿まちづくり協議会開催

●新川宿タウンウォッチングとそのまとめ(写真①)

2回にわたるタウンウォッチングを行い、地域の課題や問題点を「防災・防犯」「緑」「道路・交通」などの項目に分類し、協議会メンバーの共通認識としました。



【写真⑨】整備工事開始



【写真⑧】道路事例視察



【写真⑦】要望書提出



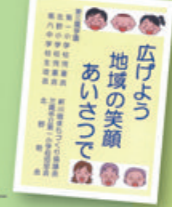
【写真⑥】会合風景



【写真⑤】道路実態調査



【写真④】協議会だより創刊号発行



【写真③】あいさつ運動ポスター



【写真②】川越視察



【写真①】タウンウォッチング